

# MIEKO NISHIJIMA 76/45

西島三重子

Side 1

1. 時の河 (岡田富美子 作詞 西島三重子 作曲 美野春樹 編曲) 4'25"
2. エピローグ (平野 肇 作詞 西島三重子 作曲 佐藤正美 編曲) 4'52"
3. 孔雀の海 (大津あきら 作詞 西島三重子 作曲 岡崎倫典 編曲) 4'36"

Side 2

1. adieu (アデュー) (みなみらんぼう 作詞 西島三重子 作曲 青木 望 編曲) 3'22"
2. 浪漫一夜 (平野 肇 作詞 西島三重子 作曲 宮川 泰 編曲) 3'08"

制作にあたって

日頃第一家電をご愛顧いただき誠にありがとうございます。「マニアを追い越せ大作戦」も会員の皆様の御支援のおかげで第25回目を迎える事になりました。

この記念すべき第25回を飾るに相応しい歌唱力抜群の実力派シンガー・ソングライター西島三重子さんに登場していただきました。

西島三重子さんは昭和50年9月にワーナーパイオニアからアルバム「風車」でデビュー、その後シングル「池上線」のヒットでニューミュージック界での地位を築き、独特の個性とオリジナリティを発揮し、アルバム、ライブと活躍を続けている、11年のキャリアを持った実力派です。またソングライターとしての評価も高く、ミルバヤ木の実ナナ、柏原芳恵、五木ひろし、石川ひとみなど幅広い歌手に曲を書いてきました。この実力派シンガー・ソングライター西島三重子さんは昨年秋より東芝EMIに移籍し、その第1弾として発売した「SHADOW」そしてこの6月4日に発売する第2弾のLP「寝物語」の2枚のアルバムの中よりSide1 3曲は「SHADOW」から、そしてSide2 2曲は「寝物語」からと合計5曲を選び、今回の「西島三重子76/45」を企画いたしました。この「SHADOW」と「寝物語」2枚のアルバムともマルチ録音が主流になった現在では考えられないボーカルとバックの演奏を同時に録音する、「同録」といわれる方式で録音されています。それだけでも西島三重子さんの歌唱力は計り知れません。現在市販されているボーカル・アルバムは一部のライブやジャズなどをのぞいてはほとんどが、演奏を先にマルチ録音し、ボーカルだけ最後にカラオケをまわしながら録音する方法がとられています。制作費その他の問題以上に1曲を完璧に歌いこなせる歌手が少なくなった事が原因の大半のようです。またアレンジャーもボーカルに期待せず、シンセサイザーなどエレキ楽器を多用してバックの演奏ばかり凝って肝心のボーカルが小さくなっているようなアルバムが氾濫している中で、西島三重子さんのこの2枚のアルバムはボーカル・レコード本来のあり方を完璧に実行し、更にSide1・2、5曲とも全曲アレンジャーが異なり、1曲1曲個性豊かな雰囲気を持った録音に仕上がっています。

同時録音を意識してか、録音時、他に影響の出やすい打楽器を極端と思えるほど少ない、シンプルな演奏で、エレキ楽器も一部、エレキギターとエレキベース以外はアコースティック楽器中心に使用している為、全体的に心なごむ自然な響きを持ったサウンドが西島三重子さんのボーカルとも非常にマッチし、クオリティの高いボーカル・アルバムとしてオーディオ・チェックレコードとして最適な内容に仕上がっています。

カットリングは76cm・2トラックのテープをDAMのノウハウを駆使して、リミッターやイコライザーをまったく使用せず、マスターテープの音そのままを45回転、ハイレベルカットティングしました。その結果Side2の2曲が録音時にボーカルにリミッターを使用していない為か、アーム・カートリッジには非常に酷しい場合がありますので、調整に十分御注意をお願い致します。

「西島三重子76/45」はデジタル的なドライサウンドとは正反対の暖かさや雰囲気十分なアナログ・アコースティックサウンドの世界を十分に楽しんでいただき、皆様の愛聴盤として末長くお聴きいただければ幸いです。

最後に東芝EMIのスタッフの方々の絶大なる御協力に感謝し厚くお礼申し上げます。

DAM推進委員会

## 西島三重子プロフィール

〈生年月日〉 S.25.8.17

〈出身地〉 東京都中野区

〈出身校〉 川村学園短期大学家政科卒業  
和光大学芸術学科3年中退

〈家族構成〉 父、母、姉2人、弟2人、ホリー(シャム猫)

〈趣味〉 スキー(3級)、絵画

1975. 9. 25 EP「のんだくれ」 LP「風車」でデビュー  
1976. 4. 25 EP「池上線」発売  
1977. 4. 25 LP「さめないうちに…」 EP「1460日」  
6. 25 EP「ジンライム」  
1978. 6. 25 LP「かもめより白い心で」 EP「かもめより白い心で」  
10. 25 EP「思い出を振りかえらずに」  
1979. 3. 25 EP「黄昏の街でさよなら」  
4. 25 LP「水色の季節の風」  
10. 25 LP「シルエット」 EP「千登勢橋」  
1980. 8. 25 EP「愛の行先」 17cm/LP「千登勢橋」他3曲  
10. 25 LP「メモリー」  
1981. 1. 25 LP「Bye-Bye」 EP「あきらめてサンバ」  
2. 25 LP「THE BEST OF MIEKO NISHIJIMA」etc. BEST ALBUM

1981. 5. 25 EP「Bye-Bye」  
8. 5 EP「一瞬の夏」  
11. 25 LP「LOST HOUR」  
1982. 1. 25 EP「天体望遠鏡」  
5. 25 LP「Image」 EP「火曜日にベルギーで」  
11. 21 LP「記憶の時間」(2枚組LIVE)  
12. 16 LP「記憶の空間」(2枚組LIVE)  
1983. 6. 21 LP「Soft-i」 EP「恋遊び」  
1984. 2. 21 LP「こんなに遠くまで来てしまった」  
8. 21 LP「BEST LIVE」  
12. 1 EP「夕闇のふたり」  
12. 16 LP「夕暮」(6曲入り)  
1985. 夏 みなみらんぼう氏と出会い、デュエット決まる。  
1985. 10. 21 EP「時計を見ないで」  
11. 30 LP「SHADOW」  
1986. 6. 4 NEWアルバム「寝物語」  
6. 25 NEWシングル「流されて」  
☆今秋公開の松竹富士映画「冬なき」の主題歌に決定!





## 曲の解説とききどころ

オーディオ機器は、今さら言うまでもなく音楽を聴くための道具であるはずだ。しかし、オーディオ・マニアと呼ばれる人々のなかには、稀にオーディオ機器の音を聴くために、レコードやCDを所有しているのでは、と思ってしまうような人もいます。

また、よくオーディオ機器の購入やチェックの際には聴き慣れたソースを使うべきというオーディオ・ファンの間では常識になっている。しかしながら、オーディオ専門誌などで視聴用に使われているソースというクラシックかジャズと相場が決まっている若い音楽&オーディオ・ファンにとっては馴染みが薄いのではないかと思えるふしがある。さらに、どちらも市販レコード全体からみると、その割合は少なく余り一般的でないのでは？と思いの方もいるに違いない。

歌謡曲でも演歌でも、ポップスやニュー・ミュージックだってオーディオ機器の音質評価やチェックは、いくらでもできるはずという方もいるはずだ。確かにその通りだ。しかし、こうしたいわゆる流行りものの音楽は音録りの段階で音の傾向がめまぐるしく変っているため普遍性に乏しくなってしまう。そのために、クラシックやジャズがオーディオのテスト用に使われることが多くなるわけなのだが、音楽の好みなど本当は十人十色なのだから色々なジャンルにわたって音の良いレコードがある方がオーディオの楽しみが広がっていくのは間違いないところだ。

今回のDAMオリジナル・ディスクは、久々にニュー・ミュージック系のソースであり、これまで以上に、より多くの人が高音質を楽しめるし、減少傾向にあるアナログ・ディスクにも捨て難い魅力と可能性があると信じているADファンにとっては何よりの贈りものといえるだろう。

本アルバムは、西島三重子の2枚のアルバム、『SHADOW』と『寝物語』から厳選した5曲が収められており、彼女の表情豊かなヴォーカルを堪能できると同時に再生機器のチェックが可能だ。それもアコースティック楽器を主体としたナチュラルな質感のサウンドだから、愛聴盤として永い間ターンテーブルにのることになるはずだ。

### \*時の河

スローな3拍子で書かれた正統的なシャンソンを思わせるトーチ・ソング(失恋の歌)で、情感を込めてしっかりと歌い上げる西島三重子のヴォーカルが胸を打つ。オーボエとピアノそれに彼女のヴォーカルの三者がどこまで分離しているか、また、鼻にかかったようなオーボエ独特の音色や微妙なヴィブラート、ヴォーカルのニュアンスなどがきちんと再現できるかはシステム全体の分解能や質感の高さで決ってくるといえるだろう。

途中から左右に広げたストリングスが加わってくるが、この辺りは音場感のチェックにもってこいだろう。

### \*エビローグ

一つの愛の終わりを唄った悲しい曲であるが、主旋律はボサ・ノヴァのリズムでサラリと歌い余り暗さは感じられない。ガット・ギターのアルペジオによる短いイントロに続き、ギターだけをバックにヴァース(本来的には詩とか詩の一節という意味なのだが、音楽ではポピュラー・ソングでコーラスの前に演奏

される部分をいう)が唄われる。ここはギターとヴォーカルだけでなく、SN比のチェックやヴォーカルのエコー、ヴィブラートなどで透明度の高さやディテールの再現力を知ることができる。また、ここで聴ける西島三重子の澄みきった歌声も印象的だ。

続いてゆったりとしたテンポのボサ・ノヴァのリズムに導かれメインテーマが始まるのだが、低い音程のパーカッションが効果的に使われているが、これなど低域のダンピングや周波数特性、分解能などをチェックするのに最適どころといえるだろう。

16小節後にピアノやラテン・パーカッションが加わって、全体のセパレーションや粒立ちの良さが光っているが、ここは45回転、高音質ディスクの威力といえるだろう。

### \*孔雀の海

左右に振り分けたアコースティック・ギターのアルペジオのイントロで始まるが、ここはセパレーションのチェックに最適どころだ。また、前曲のガット・ギターとの音の差がはっきりと出ているかどうか聴きどころといえるだろう。低音弦の持続音に高域の細かなフレーズがマスクされないかどうかどうかもチェックポイントになるはずだ。また、西島三重子のヴォーカルでは中域の質感とともにシステム全体の質感も判断できることになるのは言うまでもない。後半ではハードなタッチのアコースティック・ギターのコードが効果的に使われ、哀愁の漂うこの曲を盛り上げるが、ここで歪み感があったり、刺激的な響きが出たら針圧やスタイラスの再点検が必要だ。

### \* adieu (アデュー)

ちょっと古い感じの音で録られたヴァイオリンが印象的なイントロで始まるシャンソン・タッチの失恋の歌であり、Side 1とは一味違う雰囲気を出している。それに続きアンニュイな気分を漂わせる西島三重子の歌が聴けるが、メロディーの前半は左右に振り分けたアコースティック・ギターとベースのみをバックにしている。ここは定位感のチェックに最適で、ヴォーカルとベースがセンター、そして左右にアコースティック・ギターが広がって定位していれば問題はない。どちらかといえばストリングスが強調された音造りになっているが刺激的であったりメタリックになることはなく、かえって効果的だ。ヴォーカルにピアノやアコースティック・ギターのアルペジオのバックが、ヴォーカルの量感やストリングスに埋もれてしまうようだと分解能が不足していると考えられる。

### \*浪漫一夜

アルゼンチン・タンゴ風のリズムにのって唄う短い恋の歌で、バンドネオンやストリングスの躍動的なリズムの切れが聴きどころとなるだろう。また、コントラバスが弓弾き(ポウイング)でバックをつけているが、持続音では量感を、そしてスタックートの箇所ではダンピングのチェックが可能だろう。本作は、45回転・高音質ディスクであるから当然ながら各楽器の分離や粒立ち、ピアノの立ち上りなども申し分ない。そして、この曲はヴォーカルもバックも抑揚があるが、特にバックのメリハリが効いていてクレッシェンド、デクレッシェンドが非常に明確に演奏されているのでダイナミック・レンジの狭い再生装置では、その辺りの雰囲気を出しきれない可能性があるかもしれない。

小林 貢

## レコーディングにあたって

西島三重子のアルバム『SHADOW』と『寝物語』は、録音の基本とも言える歌手とオーケストラを一同に集めて録音する、同時録音方式で行なわれた。本番数日前にリハーサルスタジオで、本番と同じミュージシャンを集めて譜面合わせとリハーサルを行ない、「エビローグ」からレコーディングが始められた。

『SHADOW』における録音の特長は、西島三重子のヴォーカルのみに使用したテレロニクス社製の真空管式のリミッターがあげられる。ヴォーカルの自然さは、西島三重子の声質にマッチしたと思う。

また、ガットギターとアコースティックギターのマイクアレンジは、弦と指が接触するところにマイクをたて、更にSONY ECM-50(エレクトレット・コンデンサー・マイク)をギターの胴の中に入れ、この2本のマイクをミックスすることで、奥行きのある、暖かいマイルドな音が楽しめると思う。

「エビローグ」の途中から入ってくるスルドーと言うサンバのベースパートに使用される楽器の場合は、心地よい低域音を得るためスタジオに厚手のベニヤ板を敷き、その上で演奏してもらい、直接音はエレクトロボイス社製RE-20で皮の振動音を、間接音はノイマン社製U-87で響きを収録した。

『寝物語』における録音の特長は、エフェクターを一切使用せず、コンソール卓のイコライザーにエコー処理だけ、つまりスタジオ内の音をありのまま収録、再現したことににつきると思う。

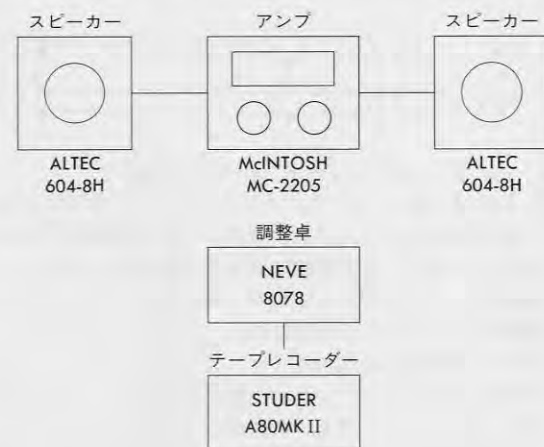
「adieu」、「浪漫一夜」共に同時録音、ノンリミッター方式と言う収録が行なわれ、SIDE 1と比較するとヴォーカルのスケの良さ、楽器の解像度が一段とアップしていると思う。

特に、「浪漫一夜」では、現役である9人編成のタンゴ楽団を起用しており、中でも3人のバンドネオン奏者(アコーディオンの一種)はスタジオ・ミュージシャンでは出せない味でヴォーカルをサポートしていると思う。

最後に、『SHADOW』、『寝物語』での収録は、長い録音経験の集大成であると共に、思い出の1ページを飾る記念すべきレコードになると思う。

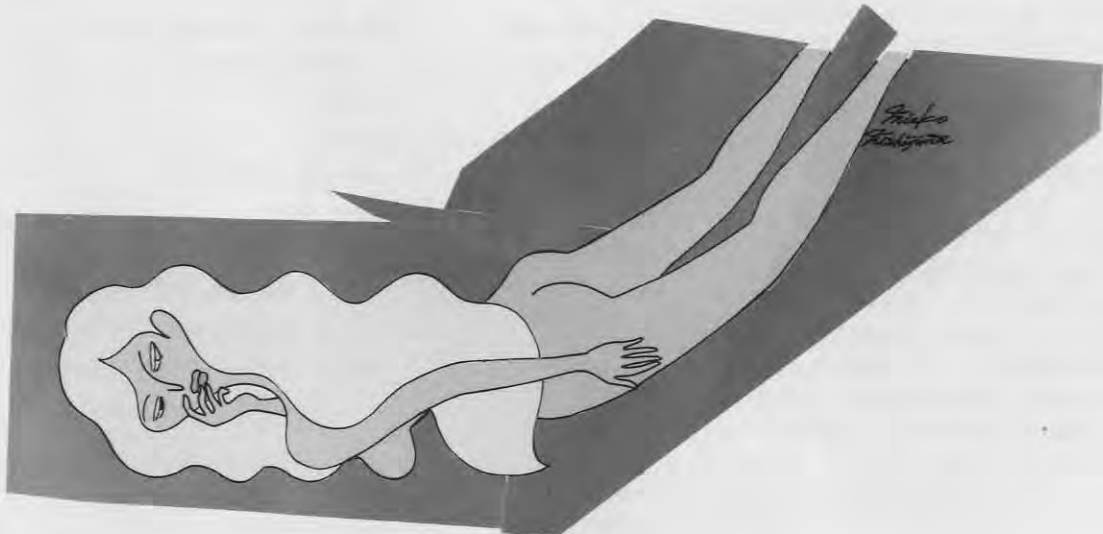
### レコーディング・ミキサー 小菅憲一

## ブロック・ダイアグラム(日活スタジオ) = adieu



## レコーディング・シート = adieu

M=	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
						W. Bass	U-87	U-87	U-87	SONY ECM-50	AK4 C-919	
adieu						U-87	U-87	U-87	U-87	U-87	U-87	
TIME	3'22"											
TAKE												
NOTE												



## ■ DAMハイクオリティ・レコードについて

最近のデジタル・オーディオ技術とその周辺技術の急速な進歩で、ビデオ・ディスク及びコンパクト・ディスク(CD)の開発技術によって得られた製盤の技術とノウハウを最大限に駆使し、従来のマスプロの仕様とは性格の異なる、手作りのプロセスを経て制作されたものが今回のDAMレコードであります。

オーディオ・マニア諸氏はもちろんのこと、音楽ファンの皆様も年2回企画されているDAMレコードについては、常に新しい試みがなされ、前向きな姿勢で技術的テクニックとそのトーン・キャラクターを追求し、より忠実な音楽の再現を制作ポリシーとしている意図を理解していただいていることと思います。

そこで今回のハイクオリティ・レコードの特徴を述べてみます。

### レコード(フラット・ディスク)形状

一般レコード形状は、音溝部を保護する為にレーベル部とレコード周縁部にグループガードをほどこして、音溝部が直接に接触しない様に厚くなっており、これが一方では、レコード再生条件や音質への影響を考慮した場合必ずしも望ましい形状では無いようです。

例えばa) グループガードの傾斜している溝部に再生針先が正規な溝壁面接触しないままトレースする為に、異状音の発生やノイズの発生原因となります。b) ピックアップを下す時ヘタをすると、針先が滑って音溝部までジャンプする事もキズの原因となります。c) ピックアップによっては、カートリッジの底がグループガードに接触することもあります。d) 音質への影響としては、断面形状から解るように、ターンテーブル・シートと音溝部の密着性が悪くなり、レコード個有共振を起こしやすい状態にあると云えます。

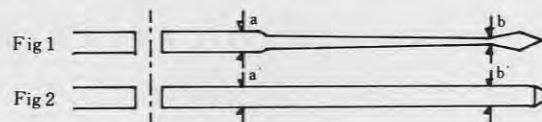


Fig 1 一般のレコード a-b=0.6(mm)

Fig 2 新フラットレコード(ディスク) a'-b'=0.2(mm)

御存知のようにステレオ音溝は、水平振幅は左右信号の和(L+R)、上下振幅は左右信号の差(L-R)として録音カッティングされており、特に本レコードのように通常のレコードより+5dB程もハイレベルでカッティングされた複雑な音溝の再生は、より以上のカートリッジの振動エネルギーでレコード盤を烈振させ、レコードの個有共振によって音質への影響が十分に考えられます。

共振はマスとコンプライアンスの積で表わされますから、レコードの個有共振はレコードを厚く重くすることでマス成分を増して共振を下げ、更にレコード平面均一性の精度を上げ、フラット面に形状変更することでターンテーブル・マットとの密着性を大幅に改善し、共振によるレコードとターンテーブル・マットとの間に起こるリアクションを緩和させる事を可能にしました。これにより今までに無いサウンド・キャラクターが得られ、特に中域から低域の分解能を一段とクリアーにして、そのナチュラルな響きはよりオリジナル・サウンドに近いものと確信しております。

ターンテーブル及びターンテーブル・マットの材質、形状によっても音質の変化があるように、レコード形状

質量によっても音質へ影響するファクターは充分考えられますが、今回のこのレコードは特に再生条件を考慮した上で新フラットプロフィールを採用致しました。

### 一般レコードとの比較

重量比	30%up
厚さ比 最厚部	15%up
・最薄部	65%up

更に偏心の要因の1つであるセンターホールとプレーヤーのセンターピンとのガタについて注目し、先ず市販プレーヤーのセンターピン寸法を調査してその結果でレコードのセンターホールの設計変更を行い、最小限ガタツキを減らす為にセンターホールの径を小さい方向に持って行きました。

## ■ クォーツ・ロック、厚手レコードについて

従来のシンクロナス・ダイレクト・モーターによる大振幅のカッティングでは、動的ワウ・フラッター(ダイナミック・ワウ)が少なからず音質に影響を及ぼしますが、今回の“DAM45”では、高精度にサーボされたクォーツ・ロックD.D.モーターとダイヤモンド・カッター針を採用することで、ディスク・マスタリング時に於けるクォリティーを高め、以前にまして余裕のある音溝巾と大振幅にたえられ、たっぷりとしたピッチとディプスがコントロールされるようになりました。

現在のレコードは再生系機能のグレード・アップに伴い、一段とDレンジ、Fレンジ、及びリニアリティ等、大幅に飛躍しています。振幅(P-P) 250μ~280μ、[L-R]、ピーク・レベル+20dB程度のは数多く高密度レコード化しております。このような高密度レコードの溝波形を完全にトレーシングする為に再生時の技術的ノウハウ、及びそのテクニックがいろいろ考えられ、かすかずのオーディオ誌上でも論じられています。ヘッド・シェル、トーン・アームやターンテーブル・シートの共振問題等々……。たとえば、ターンテーブル・シートを例にとっても、ゴム、なめし皮、ガラス、金属等、変える毎にその音質の変化は確実に差があります。このように再生時の高忠実トレーシングはさまざまな問題が残されています。

それでは、ディスクそのものはどうかと考えますと、一時期、薄いレコードはプレスでの塩ビ成形性が良いとされ話題になりましたが、レコードを厚くする(質量を増す)ことでレコードの共振を下げ、更に再生時のレコードとターンテーブル・シートとの間に起る共振を緩和させることで、中音低域の分解能が一段とクリアーになり、特に深みの有る、伸びた重低音の再現とバランスされたダイナミックなパワー感を充分にお楽しみ下さい。

この種のレコードは、特に安定度の高い盤質が必要とされますが、従来からのプロフェッショナル・レコードで開発した材料をベースに、新タイプの配合剤、熱安定性効果の高い安定剤の組合せにより、一層ゲル化性の改善を図り、また更に新タイプ帯電防止剤による静電除去効果ともあいまって極めて安定度の高い、この厚手レコードが生まれ、リアリティーの良いダイナミック・レンジをもつオリジナル・サウンドの再現を可能にしました。

## 30センチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードと変った点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

(1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用出来ますが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。

(2)回転が早くなるために、レコードの反りの影響が33 $\frac{1}{3}$ 回転にくらべて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意して下さい。

(3)再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますのであらかじめ室温を15℃~20℃位に保って下さい。

(4)再生時には特にアームのラテラル、インサイドフォースのバランス、及び再生針の摩耗状態、針圧(メーカー指定の重い方にセット)には充分気を付けて下さい。

(5)このレコードは、ハイクオリティーのオーディオ・チェック・レコードのため、カートリッジによってはトレースがむずかしい場合があります。

レコード材質——プロユース材料使用

### カッティング・データ

Cutting	: TOSHIBA-EMI Cutting Room
Cutting Date	: May 7, 1986
Tape Recorder	: STUDER A80MKII (76cm/sec. 2ch)
Drive Amp.	: Neumann SAL-74B
Cutting Lathe	: Neumann VMS-80
Cutting Head	: Neumann SX-74
	Diamond Cutting Stylus
	Non Limiter
	Non Equalizer

### スタッフ

プロデューサー	: 西島三重子、平形忠司、小山正敏
ディレクター	: 水沢健太郎、出口敏彦
ミキサー	: 小菅憲一
カッティング・エンジニア	: 竹内昭五
デザイン	: 東芝EMI(株) デザイン室
イラストレーション	: 西島三重子
録音場所	: SIDE 1-1. 日活スタジオ S. 60-9-24
	2. Sound City 2ST. S. 60-9-21
	3. Sound Inn BST. S. 60-9-23
	SIDE 2-1. 日活スタジオ S. 61-3-26
	2. 六本木ソニー AST. S. 61-4-6

企画	: 第一家庭電器DAM
制作・製造	: 東芝EMI株式会社